

1. 研究主題 と 今回の授業の関わり（主なもの）

○子どもの意識がつながる単元構想【助任の副主題、研究内容1に関わって】

「意識がつながる」とは、子どもが様々な「人」と出会ったり、これまでの学びを振り返ったりすることで、社会的事象への関心や問題意識を継続し、学び続けることを意図する。そこで得た学びを今後の自分たちの生活や社会の在り方に結び付けていくということ。（市研究会要項 p22）

→今回の授業で言うと・・・

市役所の方、中間処理施設の方などと **出合いを設定したり、振り返りに力を入れることで**、「ごみを減らすにはどうしたらいいんだろう」「働く人が危険な思いをしないために何とかしないとイケない」など、**関心や問題意識が続いていくようにした**。そして、授業で学んだことを**実生活で生かそう**したり、ごみ問題の**よりよい解決方法を今後も考え続けよう**としたりする子どもの姿をめざした。

○判断への意欲を高める工夫【研究内容2に関わって】

本時の導入で「これまでの取り組みが十分か？」を**問いかけ**話し合った上で、「リサイクル率」「ごみの量」「火災の動画」の**3つの資料を提示**することで、切実感をもたせ、判断への意欲を高める。

○考えを深める手だて【研究内容3に関わって】

- ・発問 **Q どうして分別することが良いの？** 【ゆさぶる問い】
（分別＝良い と 当たり前前に考えている子どもに、何が良いか問い直す）
Q（出た意見で）「これいいんじゃない？」「もうちょっとこうしたらいい？」
などはあるかな？ 【子ども同士をつなぐ問い】
- ・板書 「自分がする」「伝えてみんなでする」の2つに分類
- ・見取りと意図的指名 **「家の方に伝える」との意見を見取り→生かす**

2. 判断(A 関わり方)の授業をする時のポイント

①課題を明確にする（問題点を絞り込む）

- ・パネラーの先生方のご意見にあった「**課題を絞るべき**」＝とても大切な視点。
- ・徳島市のごみ問題は色々あるが、その中で、**特に解決すべき問題（課題）は何なのかを、子どもがはっきりつかめるようにすること**。
- ・今回で言えば「埋め立てるごみの多さ」「働く人が危険」に絞る。もしくは、「市や地域の取り組みは良いが、問題は自分を含めた市民の意識の低さだ」のように絞る。
- ・**「ここが問題だ」と子どもと一緒に整理・確認**する。
→ここが問題だから、どうすればいいか、みんなで解決に向けてできることを考えていこうという感じ。

② 自分ごととして考える（切実感）

- ・ 今回の授業のように，単元の中で働くの人の思いに触れる，切実感につながる導入の工夫をする，パネラーの先生のお話にあったように「本当にできるか？」を問い返していくなどして，子どもが本当に「これを解決したい」「何とかしたい」と思えるようにしていくことが大切。

③ 学習したことを生かして話し合う

- ・ 思いつきでなく，今回の授業のように，学んだことや単元の資料を生かして考えたり，実際の市や地域の取り組みを参考にして考えていくことが大切。